

富士見市防災環境カルテ

鶴瀬西2丁目中  
鶴瀬西3丁目東  
鶴瀬西3丁目西

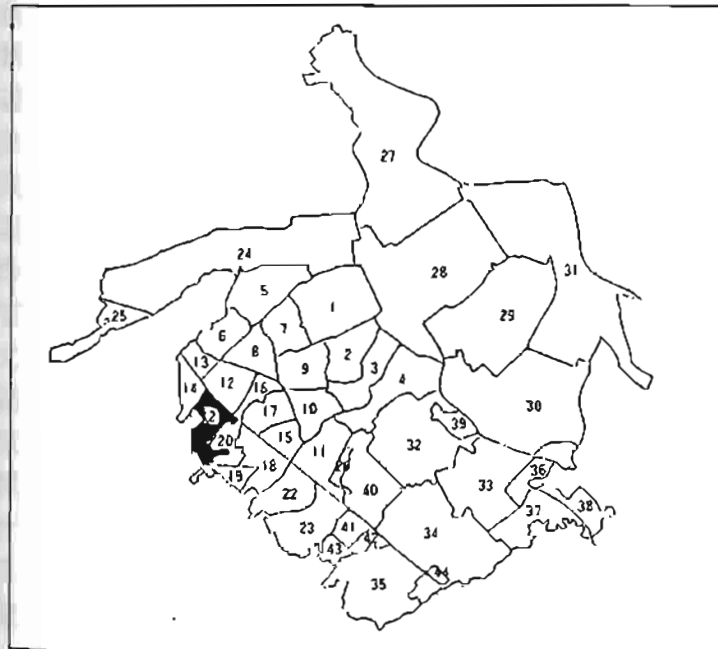
町会

位置番号 21

概況

鶴瀬西2丁目中町会、鶴瀬西3丁目東町会、鶴瀬西3丁目西町会は、富士見市の西部に位置し、全体的に台地で形成されている。台地の一部に町会の南端から北西へ延び、大井町へ続く浅い谷（浸食凹地）が見られる。北側には東武東上線が通っている。昭和34年以前は家屋棟数も14棟と少なく、武蔵野台地上の農村地帯であった。しかし、近年は、台地と盛土された浅い谷は、宅地化されて、全域が住宅地と変わり、富士見市内でも10番目に高い人口密度の住宅密集地となっている。地震災害は、木造建物密集地で出火の危険性が高く、延焼の危険性がやや高いと予想される。水害は浅い谷に沿った地区以外は少ない。

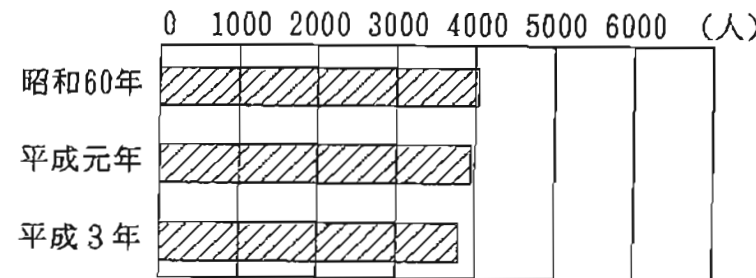
位置図



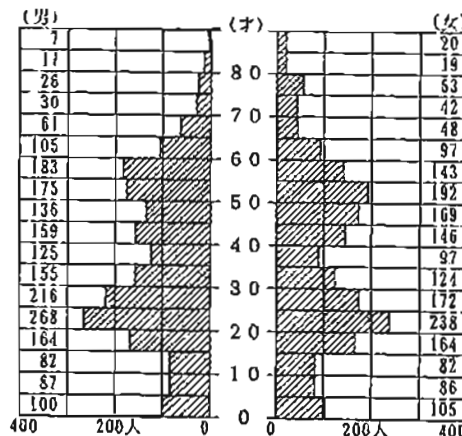
1. 基礎指標

・面積	0.205 km <sup>2</sup>
・人口(平成3年10月1日現在) 男	1,993人
女	1,894人
計	3,887人
・人口密度	18,961.0人/km <sup>2</sup>
・寝たきり老人数	9人
・ひとり暮らし老人数	57人
・世帯数	1,564世帯

人口推移



年齢別人口(平成3年)



・商住工混在率住居系	87.8%
店舗系	10.0%
工業系	2.2%

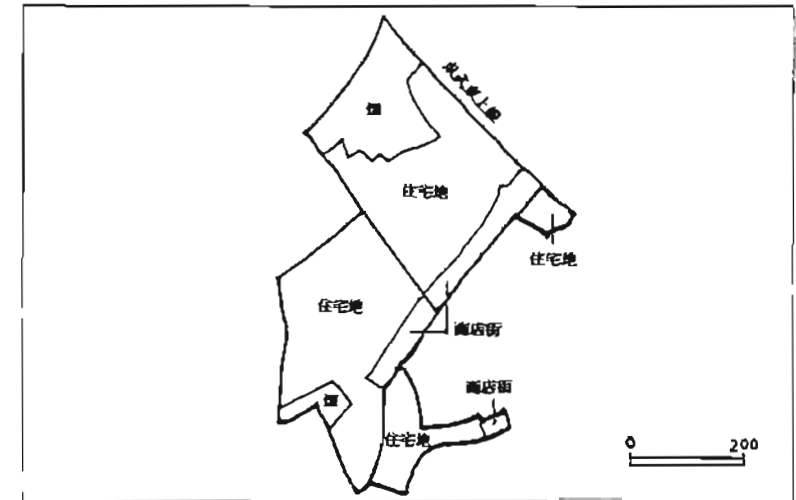
富士見市防災環境カルテ

鶴瀬西2丁目中  
鶴瀬西3丁目東  
鶴瀬西3丁目西

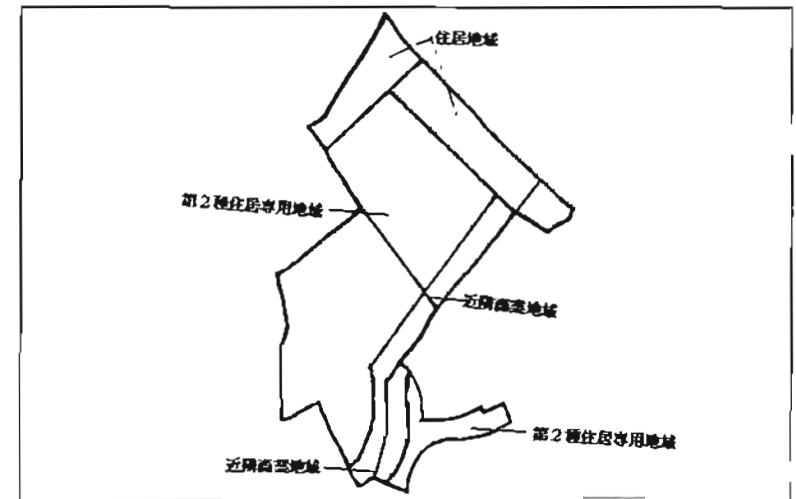
町会

位置番号 21

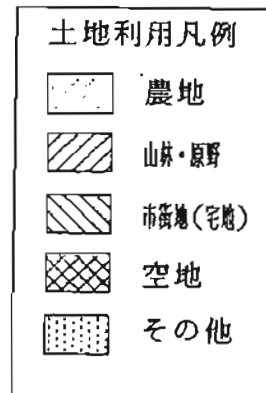
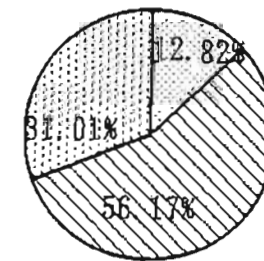
町会現況図



用途地域図



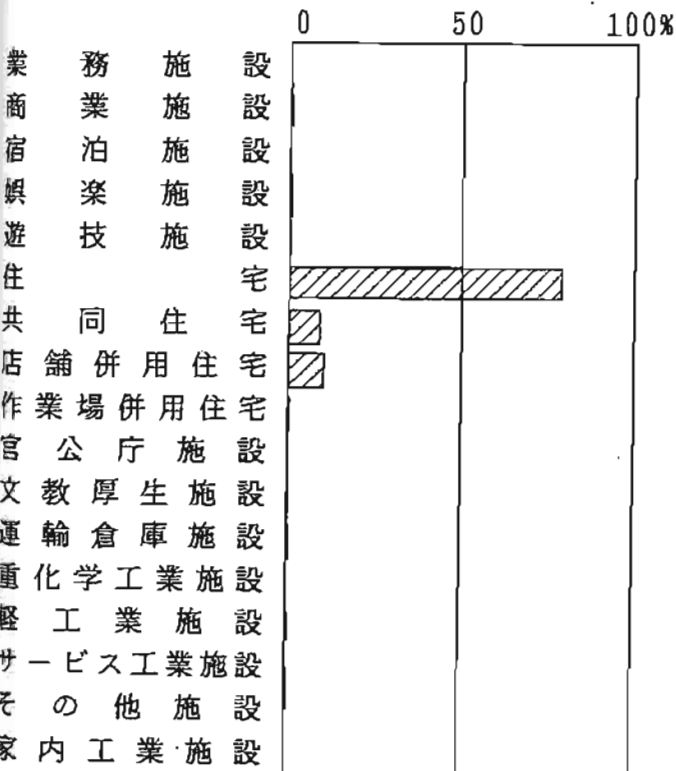
土地利用現況



建物指標

・建物棟数	1,309棟
・木造建物	1,141棟
・非木造建物	168棟
・建物面積	52,176.30㎡
・木造建物	40,733.70㎡
・非木造建物	11,442.60㎡
※建物面積は1階の面積	
・住宅率	79.2%
・木造率	87.1% (1,141棟)
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	14棟
・同上率	1.2%
・建物階層別現況 (木造建物)	
1階	211棟 18.5%
2階以上	930棟 81.5%

建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	50本 243.9本/㎢
・幹線道路率	0本 0本/㎢
・公共空地面積	0㎡
・公共空地率	0%
・1人あたり公共空地	0㎡/人
・公共空地内容 (*指定避難所)	
名称	面積
1. 高校	0㎡
2. 中学校	0㎡
3. 小学校	0㎡
4. 公園	0㎡

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	23本
・1消火栓あたり世帯数	68世帯/本
・消防水利貯水施設数	3 ( 1 ) 箇所 ( ) 内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0箇所
・一般取扱所	1箇所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0箇所
・地下タンク貯蔵所	0箇所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年 9月(舘18号)	114棟	4棟	か所
平成元年 8月(大雨)	19棟	0棟	か所
平成3年 9月(舘18号)	3棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 ( 年 ~ 年 ) 0件			
・火災出火件数 ( 年 ~ 年 ) 0件			
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0箇所	
病院	0箇所	
医院	3箇所	宮本医院, 穂坂歯科 永瀬内科小児科医院
休日診療所	0箇所	
警察	0箇所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0箇所	
・自主防災組織(数)	鶴瀬西2丁目中町会防災衛生部 2 鶴瀬西3丁目西町会防災部	
・自主防災組織参加世帯率	98.2%	
・飲用井戸本数	0本	

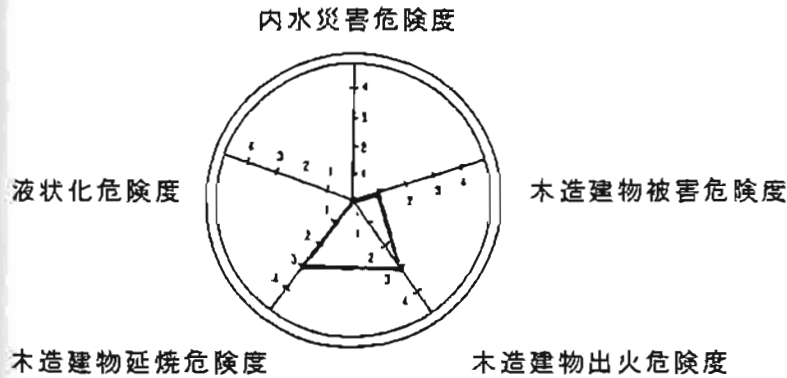
8. 危険度評価

・内水災害危険度	0ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	3ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	1ランク
危険度	液状化危険度	0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4



※ 想定震度 5(+) (強震(強))

9. 地盤条件

地盤は、町会のほとんどが台地で硬いが一部南側（鶴瀬西2丁目11番地、鶴瀬西3丁目18番地、19番地、21番地、22番地の住宅地）の浅い谷は比較的軟らかい。台地部で震度5(+)（強震の強い方）、浅い谷で震度6(-)（烈震の弱い方）の地震が予想される。

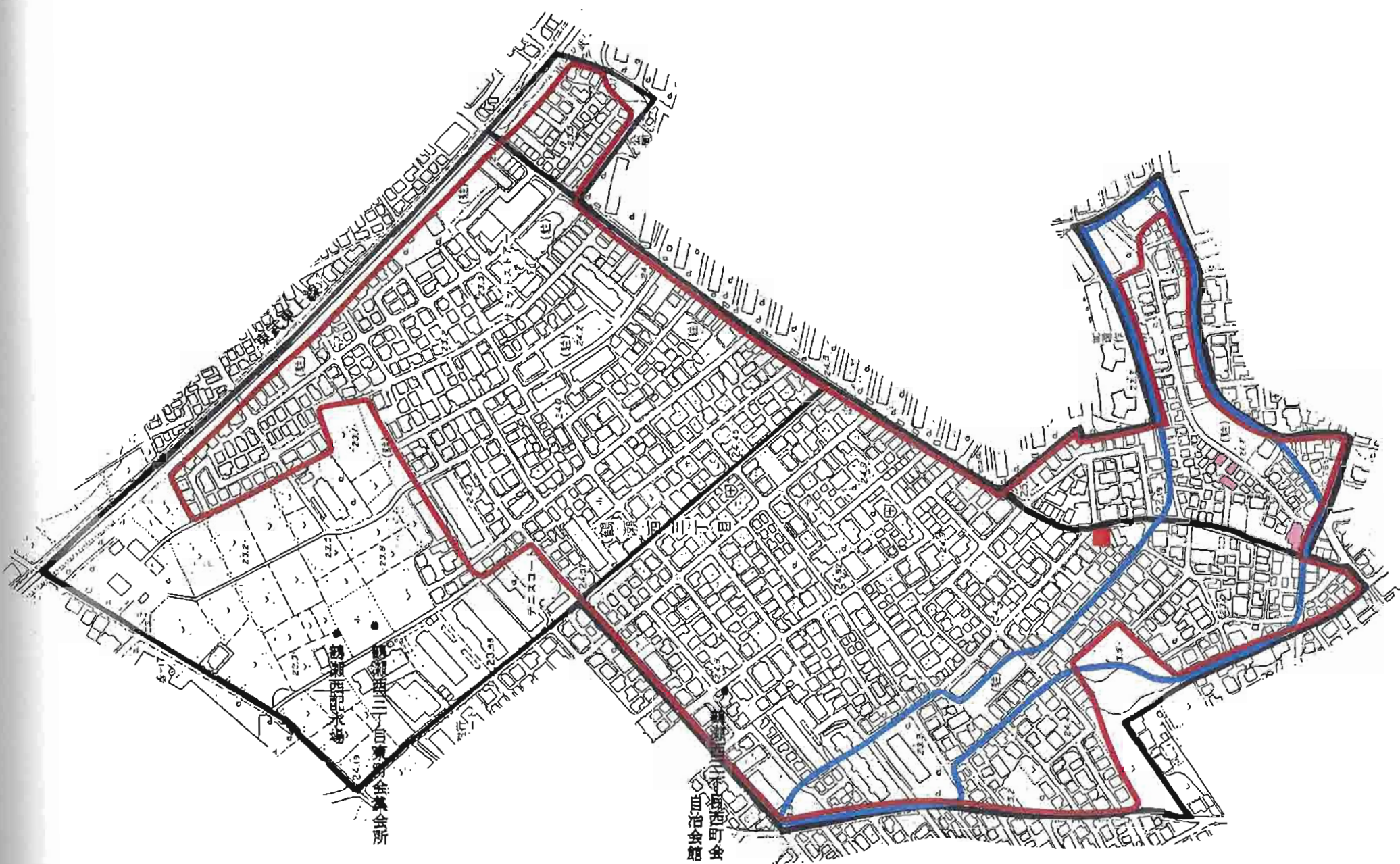
10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	権平川上流部にあたる浅い谷に沿った地区では雨水が集中し、下水路からの溢水と、地下水の噴出による浸水被害が予想される。	1. 水防能力	水防施設は無い。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	鶴瀬西2丁目中町会防災衛生部、鶴瀬西3丁目西町会防災部の2組織がある。
3. 倒壊危険	地盤条件が良いので倒壊の危険性は低い。ただし、浅い谷にある古い木造建物の倒壊の恐れがややあると予想されるため注意を要する。	3. 消防能力	世帯数と比較して消火栓数が少なく、消防水利貯水施設も少ない。住宅地内の生活道路幅員が狭いため消防車の消火活動を妨げる恐れがあるため消防能力は低い。
4. 出火危険	鶴瀬西2丁目中町会（鶴瀬西2丁目11番地）、鶴瀬西3丁目西町会（鶴瀬西3丁目18番地、19番地、21番地、22番地）の浅い谷にある住宅地を含め、木造建物密集地では出火の危険がやや高いと予想される。	4. 防火能力	商店街の一部で不燃化が促進されているが木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率は50%~70%と見込まれるため、延焼の危険性がやや高いと予想される。	5. 避難収容力	町会内には指定避難所がないため上沢小学校（上沢3丁目町会）、鶴瀬西小学校（鶴瀬西2丁目栄町会）を共用する。収容力は低い。
6. その他の災害	無い。		

11. 解決の方向性

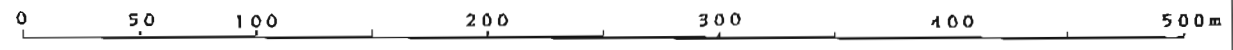
浅い谷にある住宅地、台地部にある木造家屋密集地域では、地震火災の危険性がやや高いと予想されるので、消防能力、防火能力の向上のため道路拡幅や木造家屋の耐火構造といった抜本的な対策指導が望まれる。避難可能な道路へは、住宅地内の生活道路を利用しなければならない。したがって、住宅地内のブロック塀の倒壊、商店街の看板の倒壊、自動販売機の転倒による生活道路の狭隘化を防ぐための予防対策の指導が望まれる。雨水の一時的集中により溢水しないよう十分な流量に対応できる下水路の整備が望まれる。地下水の噴出による住宅浸水という新しいタイプの災害の発生が見られるため、対策の検討が望まれる。

防災現況図A(災害発生要因)

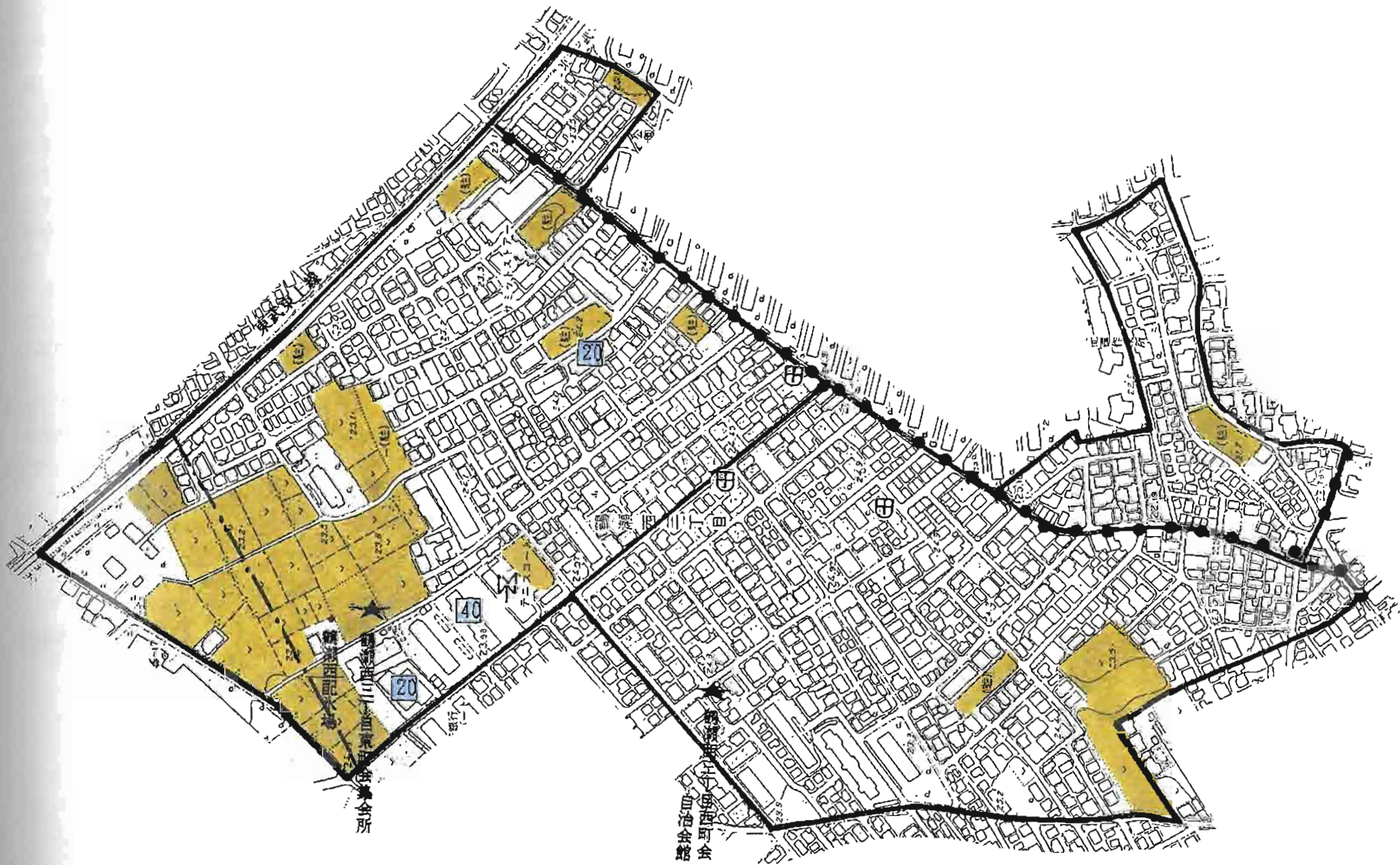


凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立体交差
■	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
■	盛 土
■	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水 防 施 設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休 日 診 療 所
	指 定 避 難 所
	公 園
	河 川 ・ 水 面
	避 難 可 能 な 道 路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

